

## 総評

英語がたいへん難しく、数学も難しい出題でした。他の3教科は標準的な難易度で、全体としてはやや難しめという出題でした。

一昨年から入試制度と同時に出題方針も変更され、問題文や資料を読み解く力や、文章や式を使って説明する力が問われる問題が多く出題されるようになりました。基本事項を定着させたあとは、他県の過去の入試問題など、実践的な問題を利用して、ポイントを押さえて問題を読むことに慣れ、知識を活用する力を身につけましょう。また、数学や英語の難問に目をうばわれて、理科や社会の復習をおろそかにしないよう気をつけましょう。理科や社会は、1・2年内容の出題の割合が高く、復習が得点に直結しやすい教科です。入試までの時間を効率よく使い、5教科の得点を最大にする方法を考えて下さい。

## 国語

標準的な難易度の出題でした。

㊦は、問五(1)の得点率が低くなりました。2020年度の北海道高校入試では、和歌の出題がありました。毎年出題される分野ではありませんが、和歌に関する基本的な知識は身に付けておく必要がありそうです。㊦は、問一と問三の得点率が低くなりました。問三は、擬人法を用いて、店内の様子を説明している一文を探す問題でした。「店内の様子」という部分に着目してから探すと、見つけやすくなります。㊦は、問三の得点率が低くなりました。【書き下し文】と【現代語訳】を対応させながら読むことで、書き抜く部分が見つけやすくなります。㊦は、比較的よく解答できていました。直近の北海道入試では、グラフを読み取る問題が出題されました。表やグラフの読み取りに慣れておくことも大切です。

## 数学

難しい出題でした。

全体的に読解量が多く、時間配分がうまくいかなかったためか、それほど難易度の高くない問題でも得点が伸びませんでした。入試を意識しつつ、出来なかった問題は必ず復習してください。

㊦問2の「累積相対度数」はどの値を指しているのか、改めて確認しましょう。㊦問3は、各頂点の座標を導いたものの、線分の長さや面積の計算がうまくいかなかった人が多かったようです。㊦問1、三角形の面積と、高さや底辺の長さとの関係を整理して考えましょう。問2、相似の問題はよく解答できていました。㊦はいずれの問も正答率が低くなりました。平面・空間に関わらず、図形の線分や角度を文字を使って表すことに慣れ、様々な問題に活用できるようにしましょう。

## 社会

標準的な難易度の出題となりました。

地理分野は、㊦A問2の得点率が低くなりました。雨温図は入試でも定番の問題なので、苦手としている人は、それぞれの気候の特色と分布している地域を確認しておきましょう。歴史分野では、㊦問3の年代並べかえ問題の得点率が非常に低くなりました。現代史を苦手としている人は多いので、年表などを利用して歴史の流れを確認しておきましょう。

公民分野は、㊦問2が「現代社会」単元の細かい内容だったこともあり、得点率が低くなりました。最近の公立高校入試では、公民に限らず、教科書の細かい内容が出題されますので、間違えた問題については直しをし、自分の知識として確実に身につけていくようにしましょう。

## 理科

標準的な難易度の出題となりました。

㊦は、どれも基本的な内容に関する出題でした。間違えたところだけではなく、迷った問題もしっかりと復習し、次は確実に得点できるようにしましょう。㊦は、オーソドックスな内容だったこともあり、全体によくできていました。㊦は、問2(2)が難しかったようです。気体の塩素は分子をつくるのがポイントでした。問3は、㊦と㊦は正解で、㊦が不正解の解答が多く見られました。空欄前後の文章の読み取りが甘かったのだと思われます。㊦は、問1と問2はやや難しかったようです。問3は、実験結果を読み取るものでしたが、簡単な比較でしたので、正解できた人が多くなったようです。㊦問1は、基本的ですが大切な内容です。間違えた人はしっかりと復習しましょう。

## 英語

とても難しい出題となりました。

㊦のリスニングでは、問1と問2の得点率が低くなりました。英文が一度しか読めない問題は、瞬時に正しい答えを選ぶ力が求められます。英文が読まれる前にイラストや本文に先に目を通して、「いつ」「どこで」「だれが」「何を/何をしているか」という情報を集中して聞き取るようにしましょう。

㊦の長文問題では、英問英答や適語補充の問題で得点率が低くなりました。内容の理解が難しかった人は、解答解説の和訳を活用して内容を確認しましょう。

㊦の英作文では、単語のスペルミス、冠詞の抜け、複数形の誤りなど文法的な誤りが目立ちました。苦手な文法項目や表現などは、教科書の基本文や辞書などで内容を確認しておきましょう。